教授挨拶

福島県立医科大学医学部　基礎病理学講座
千葉英樹

　はじめに、3月11日に起った東北関東大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様、長期の避難所生活を余儀なくされている皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を祈っております。

　私が福島医大丸に乗り込んで1年半になりますが、今回の震災そして原発事故は、予想を遥かに超えるものでした。本学職員や地域住民からも、これほどの天災は経験したことがないと伺い、まさに未曾有の大災害になってしまいました。地震直後は、教室員と基礎配属の学部学生の安全確保・安否確認、次いでその家族（特に子供）に気を使ったのを覚えております。激しい揺れが長い間続いたため、学生を含む大学関係者が中庭に避難して人で溢れかえった光景は目に焼きついています。震災翌日、福島原発事故の報道に接しましたが、福島医大丸一時下船という選択肢は100％あり得ませんでした。この大災害・原発事故を期に、大学人、県民、国民の結束力が高まったと実感しています。

　ご承知の通り、全世界の耳目を集めている原発事故は現在進行中で、収束の目処が立っておりません。退去命令や直接的被害のみならず、風評被害がいつまで続くか分からない状況です。本学や県では、「放射線に関する講習会」を開き、さまざまな風評被害にも取り組んでいるところです。本学も福島県も沢山の課題を抱え、歴史的使命を負っています。国や地方自治体、民間企業は、根本的に防災対策や危機管理を見直す必要があると考えます。

　5月6日には、一ヶ月遅れて福島医大入学式が挙行されました。佐藤雄平福島県知事、佐藤憲保福島県議会議長、清水 潔文部科学省事務次官にもご臨席を賜り、新入生とそのご両親はもちろん、私個人にとっても一生忘れられない入学式となりました。佐藤知事は58日ぶりに作業服から礼服に着替えたそうで、自分の言葉で思いを語ってくれました。その苦労たるや想像にかたくなく、こみ上げるものを抑えながら祝辞を述べてくれました。その後、久しぶりに学生たちのクラブ勧誘の大歓声を聞くことができました。まだまだ震災対応は続きますが、大学としての一区切りはついた気がしています。

　さて教室にはこの春、大学院生（博士課程）が4名加わり、医学部5年生1名が入局宣言をいたしました。今期から始まった大学院秋入学制度を利用して、さらに大学院生が来るかもしれません。また、今年度から開始される「札幌医大方式MD－PhDプログラム」に興味を示している学生がかなりいます。さらに修士課程の学生も来る可能性もあり、一気に賑やかにな

りそうです。

当講座の現在の研究テーマは、①**幹細胞の上皮分化誘導機構**、②**血液脳関門と脳疾患**、③**難治がんに対する分子標的療法の開発**、④**C型肝炎に対する新規治療法の開発**、⑤**末梢神経バリア**、⑥**細胞外マトリックス分子lamininの機能解析**、⑦**がんの転移メカニズムの解明**です。杉野隆准教授と冨岡直樹助教をグループリーダーとして、大学院生がそれぞれの研究テーマを担っています。また、3名のテクニシャンおよび秘書が、これら研究や様々な教育・病理診断・大学業務を強力にサポートしてくれています。このように、研究体制そのものも本格的に整ってきて、かなり面白い研究結果もいくつか出始めているところです。

当講座では、教室員（大学院生、博士研究員など）を随時募集しています。また福島医大では、医学部入学定員増に伴う基礎系講座の体制強化を目的にして、今年度から「**研究医制度**」が開始されることになり、現在公募中です。募集対象者は医師免許を有する者（学位の有無は問わない）、任用する職位は助教または助手、任用期間は単年度更新で3年間を原則とするといった制度です。この制度に興味のある方は是非ご応募下さい。

最後になりましたが、皆様方には末永いご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成23年5月16日